

▼スルガム錠 [内] <2022.3 販売中止>

【重要度】 【一般製剤名】チアプロフェン酸 Tiaprofenic Acid 【分類】鎮痛・抗炎症剤

【単位】▼100mg・▼200mg/錠

【常用量】600mg/日 [頓用は1回100~200mg (疾患により異なる)]

【用法】1日3回

【透析患者への投与方法】尿中には未変化体としてはほとんど排泄されないため (Davies NM: Clin Pharmacokinetic 31: 331-47,1996) 減量の必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎障害悪化の恐れがあるためできるだけ投与しない。Ccr 10mL/min 以上：減量の必要なし、Ccr 10mL/min 未満：腎障害悪化の恐れがあるため禁忌となっているが減量の必要はない (5)

【特徴】NSAIDs. 胃粘膜でPGE2の生合成をインドメタシン同様に抑制するが、PGE2の抑制作用は弱く、胃粘膜刺激作用が弱い。関節滑液中の濃度が持続するために、特に骨関節疾患に効果が期待できる。また、正常な軟骨代謝を維持するため、関節軟骨に悪影響を及ぼさない

【主な副作用・毒性】消化性潰瘍、胃腸出血、ショック、喘息発作、白血球減少、血小板機能低下、悪心、食欲不振、胃部不快感、腹痛、胃重感、胸焼け、下痢、口内炎、発疹、貧血、白血球増多、肝障害、浮腫、BUN上昇、など

【吸収】主に腸管、一部胃から吸収 (1)

【F】資料なし (1)

【tmax】1.2±0.1hr (1) 1.5hr(11)

【代謝】肝でケトン基の還元、ベンゼン環パラ位の水酸化により代謝され、グルクロン酸抱合される (1) 代謝物に活性はない (1) ほとんどがグルクロン酸抱合体になることによって消失する。腎不全患者ではこのグルクロン酸抱合体が蓄積する (Davies NM: Clin Pharmacokinetic 31: 331-47,1996)

【排泄】尿中には60%排泄されるがほとんどがグルクロン酸抱合体として排泄され、未変化体としてはほとんど排泄されない (Davies NM: Clin Pharmacokinetic 31: 331-47, 1996) 尿中に未変化体のグルクロン酸抱合体として54%回収 (1) 尿中回収率60% [未変化体10%], 胆汁排泄40% (11)

【CL/F】6L/hr [po] (1)

【t1/2】約1~2hr (1,11)

【蛋白結合率】97.9% (1,11) ほとんどアルブミンと結合 (Davies NM: Clin Pharmacokinetic 31: 331-47,1996)

【Vd/F】0.1L/kg (1)

【MW】260.31

【透析性】蛋白結合率が高いため透析で除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない【pKa】3.0 (1) 【O/W係数】0.203 [クロロホルム/水系, pH7] (1)

【効果発現時間】30min 以内 (1)

【効果持続時間】3~4 時間以上 (1)

【更新日】20210712

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。